

令和7年度 日野市立七生緑小学校 学校経営方針

令和7年4月1日
校長 折茂 慎一郎

I 令和7年度日野市教育委員会教育課程編成基本方針(概要)

日野市の教育施策	国・東京都
○「学びと育ちの日野ビジョン」(日野市総合教育大綱) ○第4次日野市学校教育基本構想(日野市 未来に向けた学びと育ちの基本構想 2024～2028年度) ○第6次日野市特別支援教育推進計画(2023年度～)	○学習指導要領 ○生徒指導提要(発達支持的生徒指導・課題予防的生徒指導) ○東京都教育施策大綱・第5次東京都教育ビジョン ○特別支援教育推進計画(第二期)第二次実施計画

令和7年度教育課程編成のポイント① 第4次日野市学校教育基本構想の具体化(持続可能性・Well-being・共生社会)

すべての“いのち”がよろこびあふれる今と未来をつくっていく力

第3次日野市学校教育基本構想の実践の基盤に、第4次日野市学校教育基本構想の次の理念の具現化を進める 1 みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる(持続可能性) 2 みんなの多様な学びと多様なしあわせをつくる(Well-being) 3 社会と未来に開き、みんなでつくる(共生社会)	「みどりプロジェクト」の推進～探究と“ホンモノ”の学び～
---	------------------------------

令和7年度教育課程編成のポイント② 社会に開かれた教育課程の編成

○よりよい学校生活を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む
○発達段階に応じた言語の能力、情報活用能力、問題発見・課題解決力等の学習の基盤となる資質・能力を子供たちに育む

令和7年度教育課程編成のポイント③ 学校教育における重点項目

1 確かな学力の育成 ～資質・能力3つの柱の育成～ ☆授業力の向上 ☆ねらいに即した多様な学びと学習評価の充実 ☆横断的・総合的学習(探究的な学び「みどりプロジェクト」)の充実 ・一人1台端末の活用 ・学校図書館の利活用 ・外国語教育の充実
2 豊かな心の育成 ～すべての“いのち”を守り、育む～ ☆“いのち”を守り、輝かせるための取組の充実 ☆親和性の高い人間関係形成力育成の充実 ☆不登校対策の強化 ☆いじめ防止対策の徹底 ・特別活動の充実 ・人権教育の充実 ・道徳教育の充実 ・生徒指導の充実 ・生命(いのち)の安全教育の実施 ・第6次日野市特別支援教育推進計画に基づいた取組の推進
3 健やかな体の育成 ～健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現～ ☆豊かなスポーツライフの実現を目指す教育活動の充実 ☆健康教育の充実 ☆安全指導の充実
4 地域を学びのステージにした教育活動の推進 ☆学校・保護者・地域とともに作り上げる教育活動の推進 ☆幼稚園・保育園、小学校、中学校が一体となった教育の推進 ☆地域等の多様な人材とともに創る教育活動の推進

II 令和7年度 七生緑小学校の学校経営方針

上記の令和7年度日野市教育委員会の基本方針を受け、以下の通り、日野市立七生緑小学校学校経営方針を定める。

1 令和7年度 七生緑小学校 経営目標

多様な個性を尊重し、一人一人が輝く児童の育成

- 【めざす児童像】
- ◎ やさしい子 (思いやり、助け合い、励まし合い)
 - かしこい子 (深く考える、判断する、解決する、“そうぞう”する、他者とつながる)
 - たくましい子 (やる気・粘り強さ、健康な身体、柔軟な対応)

【めざす学校像】 個性を発揮し合い子供が主役の楽しい学校

- 【めざす教師像】
- すべての“いのち”を守り、育む教師
 - 子供一人一人を大切にしたい親和性の高い温かい学級をつくる教師(特別活動の充実)
 - 柔軟な学び方・学ばせ方を大切にしたい教育活動を展開する教師(多様な学びの実践)
 - 児童の将来を見据え特別支援教育にかかわる知識・技能を身に付けようとする教師
 - 授業力向上のため研鑽を重ねる教師
 - 保護者、地域の人や同僚・組織とつながり、対話を基盤とした親和性のある教育活動を展開できる教師
 - 教育公務員として全体の奉仕者である自覚をもち、服務規律を遵守できる教師

2 学校経営目標を達成するための基本方針及び具体的な方策

- 児童一人一人が個性を発揮し合い主役となる楽しい学校をつくる。一人一人の良さを発揮できるよう多様な価値を尊重し、児童自ら課題を見付け、探究し、協働して考えを深め合いながら課題を解決していくことに喜びを感じられるように学びの環境を工夫する。その実現のために、学校・保護者・地域が連携を深め、“共に”子供たちを育む体制を築く。
- 多様な児童の理解を基盤とした児童一人一人に合った多様な学びを実現するため、あらゆる場面で「すべてを包み込む教育」を実践する親和性の高い学校をつくる。そのために、学習指導・特別活動の指導・生活指導等全ての教育活動、保護者・地域との多角的な連携を強化する。
- 対話（協働）と個の自由の相互承認を基盤した「探究的な学び」と、地域等の教育資源を生かした“ホンモノ”からの学びを軸とした『みどりプロジェクト』の取組を推進する。

（1）すべての“いのち”が輝き、よろこびあふれる今と未来をひらく教育の推進

- 特別活動や道徳、総合的な学習の時間を中心に、互いに思いやり助け合う態度を育て、様々な人とかかわる体験を重ねることにより、自他の“いのち”を大切にし、自己肯定感を高める教育活動を実践（児童の自発的活動への支援を工夫）
- 学校を核に、保護者・地域が一体となったサポート体制の充実
- 学びを保証する安全・安心な環境づくり

- ・各学年・特別支援学級における全教育活動で「いのち」を大切にする教育の実践、充実
(年間指導計画への位置付け・特別の教科道徳における「いのちの教育」等)
- ・自己理解と他者理解を深める活動をとおして多様性に価値を見出し、互いを尊重する態度を育成（共生社会実現の基盤）
- ・日常的な教育活動や「道徳授業地区公開講座」等の学校行事、保護者と連携した活動をとおして、学校、保護者、地域全体で「すべての“いのち”が輝き、よろこびあふれる今と未来をひらく教育」を推進
- ・一人一人の生活上、学習上の悩み等の状況を把握し、特性、環境に応じた生活指導の推進（いじめ見逃し0（ゼロ））
- ・多様な事故や災害を想定し、児童自らが危険を判断して命を守ることのできる安全指導、避難訓練の改善・充実
- ・「七生緑小学校自主防災会」と連携した防災体制の構築、対応策の充実

（2）一人一人を大切にした多様な学びの実現と特別活動の充実

- 一律一斉の学びから、自分に合った多様な学びの創造（個別最適な学び）
- 児童自ら課題を見付け、探究し、協働して考えを深め合い、課題を解決していく学び合いの推進（探究的・協働的な学び）
- 多様な学びの基盤となる親和性の高い学年学級づくりの推進（特別活動の充実）

- ・きめ細やかな児童把握とあたたかい居場所のある学年・学級経営（親和性の高い学年・学級）
- ・主体的で対話的な学び合いを推進するための授業の工夫
- ・学びのツールとしての一人1台学習者用端末の効果的活用（基礎学力の定着と自らの考えを発信するツールとしての活用の充実）
- ・基礎学力の定着指導の充実（東京ベーシック活用方法改善）
- ・算数習熟度別少人数指導「東京方式」によるきめ細かい指導と評価方法の工夫
- ・保護者の協力を得て、「家庭学習の手引き」「家スタ」を有効活用し、生活習慣・学習習慣の定着化と学ぶ力の向上
- ・SDGs（持続可能な開発目標）に関する課題解決型教育の充実（地域、企業等の活用・委員会活動での展開）
- ・学習習慣・規律の徹底（持ち物の確認、机上整理、チャイム着席、授業規律、スタートカリキュラムの改善）
- ・学級活動（1）（2）（3）をとおし、児童同士の親和性の高い関係の確立

（3）学びを支える言語活用能力の育成（読書活動の充実と情報モラルの「表現力・発信力」の伸長）

- 学習・コミュニケーションの土台を育む言語活動の充実
- 様々な表現活動を意図的に設定し、日常的に表現する喜びを味わわせ、各学級を母体として児童の主体的な学びの循環を構築。培った表現力を各教科等へと拡充
- 情報化社会に正しく適用できる力を育む情報モラル教育の充実

- ・本に親しむ機会を増やす環境を整備し、読書量を増やし、言語能力及び豊かな情操の育成を推進
(学校図書館司書・図書協力員との協働、「みどりルーム（第2図書室）」の活用推進、語彙力（量と質）の向上等)
(読書活動を充実し、不読率の改善に取り組み、考える力、豊かな情操の育成に取り組み)
- ・タブレット端末と図書の利活用（ひの電子図書館の有効活用）による課題解決・探究学習の充実
- ・表現力、発信力を発揮する場面を教育活動全般にわたって設定し伸長する取組の推進
(「みどりルーム」機能を活用した他者への情報発信活動の推進)
- ・インターネット上の情報を正しく得る判断力と、自らの考えを発信する上のモラルを育む情報モラル教育の推進

(4) 学びの環境・特別支援教育の改善、充実

- 全教育活動のユニバーサルデザイン化、「ひのスタンダード」を活用した、児童理解を基盤とした授業づくり・環境づくり
 - 発達障害・学習障害などにより生活や学習に困難さを感じている児童の早期発見、情報の共有、教育相談、学習・生活指導、進路指導を迅速かつ組織的に実施
 - 発達・教育支援センター「エール」や外部専門家、七生特別支援学校等との連携による個に応じた教育の充実
- ・校内委員会・関係者会議の定期会と臨時会を開催することによる組織的体制の強化
 - ・職員会（定期情報交換）や校内委員会等で、特別支援教育コーディネーターを軸に情報を共有化し、組織的に対応
 - ・通常の学級における専門機関の教育支援の充実（日野市発達教育支援センター(エール)、子ども包括支援センター「みらいく」、わかば教室、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、あおぞら学級担任やステップ教室担当、特別支援教室専門員、巡回臨床心理士、都立特別支援学校等との連携、協働によるサポート体制の充実
 - ・スクールカウンセラーによる保護者・児童の相談事業の充実
 - ・個別指導計画、個別の教育支援計画の作成、「新かしのきシート（就学・進学支援シート）」の活用
 - ・一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細やかな支援、合理的配慮の提供
 - ・児童のニーズに応じたリソースルーム、ステップ教室の有効活用
 - ・スクールカウンセラーと担任が共同で行う SST（ソーシャル スキル トレーニング）の実施
 - ・校内における交流及び共同学習の推進（通常の学級とあおぞら学級）
 - ・保護者向け「ステップ教室」「リソースルーム」活用の広報及び理解促進、指導の充実
 - ・新たな知的障害特別支援学級「なのはな学級」の開設と教育活動の充実

(5) 地域をステージとする学びの充実と幼保小中・特別支援学校とのつながりによる一貫した教育活動の充実

- 地域をステージとする学びを充実させ、保護者・地域とともに創りあげる教育活動
 - 幼稚園・保育園、近隣の小中学校、七生特別支援学校とともに地域共生社会を築くべく、つながりによる教育を展開
- ・学校、保護者、地域機関と共に創りあげていく教育活動を推進（福祉教育、自分たちが住む地域学習、国際理解学習等）
 - ・「歩こう 調べよう ふるさと七生」・日野市郷土資料館・日野市立小島善太郎記念館等活用した日野の歴史や文化、芸術等を学ぶ活動を充実
 - ・近隣の幼稚園、保育園と相互の学び合いを推進し、共生社会の実現に向けた連携（ミニ学校や交流学習）
 - ・七生地域のさらなる共生社会の進展を期して、日野第三中学校や夢が丘小学校、わかば教室、七生特別支援学校とともに、教職員の交流や児童生徒間の多様な交流をさらに展開し充実を図る…インクルージョン事業の発展
 - ・都立特別支援学校に在籍する児童との副籍交流の発展・充実

(6) 子供たちの健康を増進（一生涯にわたる健康で安全な生活の基礎づくりと運動に親しむ機会の充実）

- 健康増進の計画を改善し、体を動かす楽しさや大切さを学校全体に広げ、身体活動を生涯にわたって楽しむ態度を育成
 - 食生活や睡眠の重要性について学ぶ機会を設け、保護者の協力も得ながら健康的な生活をする態度を育成
 - SDG s（持続可能な開発目標）の健康に関する目標の達成を目指した教育を実践
 - 衛生的な生活習慣について学び、身に付けることで、感染症予防に努め、生涯にわたる健康な生活につなげられるよう育成
 - 心の面でも身体的な面でも危険回避ができるよう育成（SOS 発信の力）
- ・体力調査分析に基づく、全校での継続的な体力向上のための活動を推進
 - ・体育授業の改善、休み時間や放課後における意義ある遊びの充実等により、体を動かすことの大切さや楽しさを実感させ生涯にわたって健康に過ごせるよう身体活動を続ける習慣の基盤づくり
 - ・近隣大学の派遣学生や地域スポーツクラブ等による連携授業等を実施し、楽しさ心地よさに触れ、身体活動に積極的に取り組む態度を育成
 - ・食事や睡眠の重要性を学ぶ機会を設定するとともに、保護者の協力を得ながら健康的な生活習慣を育成
 - ・東京オリンピック・パラリンピックのレガシーに関わる教育の推進
 - ・手洗い、清潔なハンカチ等の使用を習慣化し、感染症予防・衛生的な生活ができるよう育成（衛生意識の向上）
 - ・養護教諭、栄養士、学校医が連携して情報の取得、共有を行い組織的・的確な食物アレルギー対応を実施
 - ・SOS 発信の仕方等を学び、相談による心の安定・健康を図れるような態度を育成

(7) 働き方改革に対応した効率的な組織運営

- 校務分掌組織の再編（O J Tの充実：効率的な業務）によるさらなる業務改善
 - 外部人材の活用
- ・業務の見直しと業務改善（分担・組織的連携の効率化、職層に応じた職務分担の明確化）
 - ・業務の複数担当によるO J Tの推進（業務継承についての組織的改善）
 - ・I C T機器を活用した事務処理の効率化と会議の精選
 - ・校務用パソコン等を活用した教材等の共有の推進
 - ・外部人材や非常勤職員等の積極的・有効的活用による業務改善
 - ・閉庁日、学年・専科で定時退庁日の設定